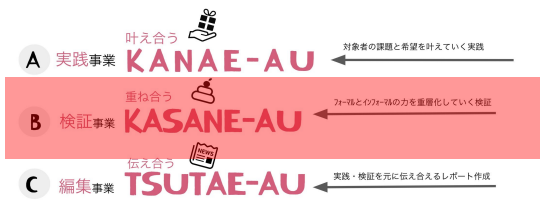


B. KASANE-AU project -カサネアウ-

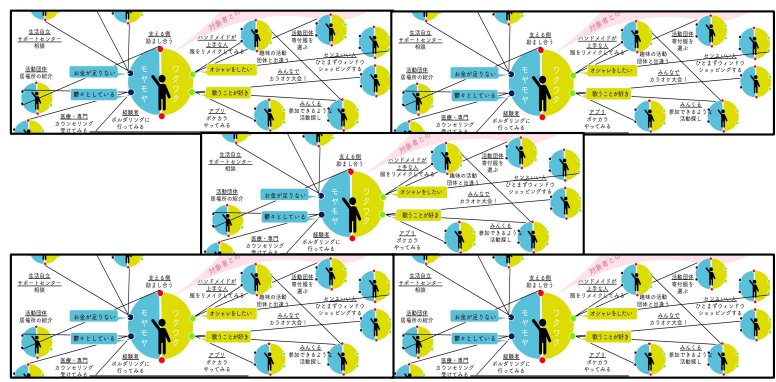
AU-CASE project 3つの事業(A・B・C)



重ね合う検証により

① 重層マップの構築

重層マップを元に、
関わり方と人数などを把握
5名分のマップの完成と
関係人口の見える化



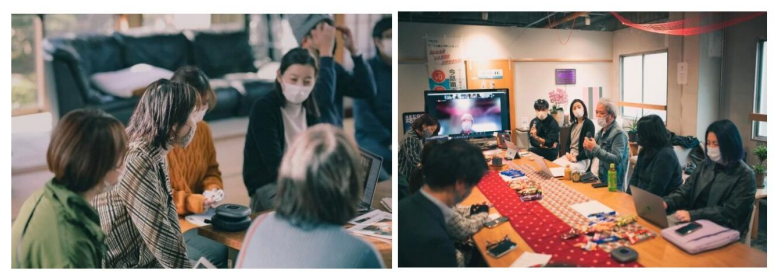
② アウフォーマルの検証

実践を元にフォーマルと
インフォーマルが融合する為に
必要な視点や価値観、基準などを
導き出していく。定義をつくる。

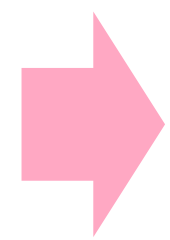


③ 久留米らしい重なり方デザイン

約10問の5段階チェックシートを
準備し、3人の伴走者が毎月
チェックしていく。
今までの活動からの意識や価値観の
変化の指標とする。



久留米らしい重なり方デザイン



C. TSUTAE-AU project

-ツタエアウ-

AU-CASE project 3つの事業(A・B・C)



伝え合う編集により理解の広がりをつくる。

グッチョ

Guccho

〇〇し合えるまちへ。「支えぐっちょ」「つながりぐっちょ」な人や取り組みを紹介する地域福祉マガジン

VOL.07 「見守り」「見張り」。どっち?



地域福祉の啓発 Community welfare enlightenment
久留米市が昨年度に作った「地域福祉啓発ポスター/チラシ」のメイン写真です。新えたのは「周りの人に意識を向けよう」のメッセージ。しかし、ある大学教授から疑問を投げかけられました。

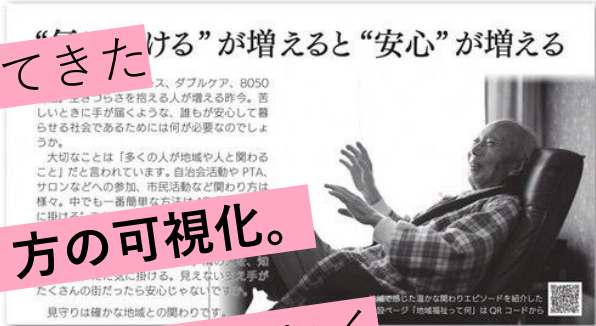


“見守り”が増えると“安心”が増える

で見えてきた

久留米らしい支援の在り方の可視化。

今後久留米らしい地域福祉を進めていく
為に人が人へ、伝えていける、伝えたく
なる価値観を編集する

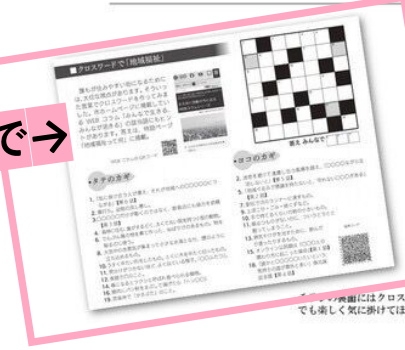


「見守り」なのか「見張り」なのか。地域に意識を向けることで、困っている人が助かる場面は多々ある。一方で、目を向けられる立場からしたらどう感じるのか。教授はそれを言いたかったのだ。

「見守り」は、意識を向ける人が増えたいと思います。しかもゆるやかに。ライブスタイルや価値観の多様化が進んだ結果、地域はそれを言いたかったのだ。

「見守り」は、意識を向ける人が増えたいと思います。しかもゆるやかに。ライブスタイルや価値観の多様化が進んだ結果、地域はそれを言いたかったのだ。

グッチョの1コマで→



撮影：舞台裏、撮影に同行してくれたのは、はじり会の運営メンバーで津田さんお気に入りの友人です

「見守り」の裏面にはクロスワードパズルも。少しでも楽しく気に掛けてほしいという思いから

事業スキーム（実践A⇔検証Bの循環と、編集Cの発信）

地域包括支援センター
 障害者基幹相談支援センター
 生活自立支援センター
 子ども子育てサポートセンター
 その所管部局・社協・地域福祉課

NPO法人久留米越冬活動の会
 NPO法人くるめ出逢いの会
 NPO法人久留米手をつなぐ育成会
 一般社団法人umau.
 Chietsuku.project

Auformal

アウフォーマル

Formal
 フォーマル



Informal
 インフォーマル

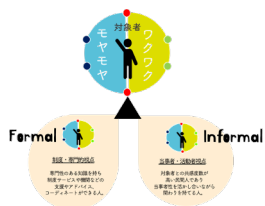
共に関わり共に進む

A 実践

かなえ合う
 KANAE-AU project



叶え合う支援の実践(5ケース)



サービスの
 一方的な提供による
 解決だけではない
 本人の想いや強みを
 活かす。

実践

改善

重ね合う
 KASANE-AU project



検証 **B**

- ①重層マップの構築
 (A叶え合う事業の改善や整理・意見交換等)
- ②アウフォーマルの検証
 (フォーマルとインフォーマルの違い認識や共通言語等)
- ③久留米らしい重なり方デザイン
 (今後の地域福祉や支援の在り方等)

プロセスや成果の伝播

C 編集

伝え合う
 TSUTAE-AU project



地域福祉マガジン
 グッチョへの掲載

自立していく
 支援対象者が増えたり
 自然な支え合いが起こる

専門機関や地域で
 AU-CASEが
 生まれ始める

制度や地域と
 繋がってない人たちが
 繋がりは始める